

カテゴリー	報道日	地区	ニュースソース	助産 News 掲載日
思春期	2006 年 6 月 21 日	アメリカ マサチューセッツ州	CNN.co.jp AFP BBNews 産経ニュース	2008 年 6 月 28 日
タイトル	女子高生が妊娠協定？			

## 女子高生が妊娠協定？ 米マサチューセッツ州のグロスター高校

マサチューセッツ州(Massachusetts)グロスター(Gloucester)は、ボストンから北へ約50キロ離れた大西洋沿岸の小さな街で、人口3万人、魚の漁獲量や岩場の美しいグッドハーバー・ビーチ(Goodharbor Beach)などで知られている。史上最大規模の嵐と死闘を繰り広げた漁師たちの実話をもとにした映画「パーフェクト・ストーム」(2000年)の舞台としても知られている。

そのグロスター高校(Gloucester High School)で、今年、妊娠する女子生徒が急増し、学校側が調査した結果、一部の女子生徒が妊娠、出産、子育てを協力するという“協定”を結び、互いに申し合わせて故意に妊娠したことを認めたと、6月18日発行の米誌タイム(Time)が伝えた。生徒たちの計画妊娠をめぐる疑惑は、今年3月、地元紙がジョセフ・サリバン(Joseph Sullivan)校長の話として報じていた。女子生徒が妊娠、出産、子育てを協力するという“協定”を結び、実際に17人が妊娠していたことが分かった。

サリバン校長がタイム誌に語ったところによると、同校では通常、年間4人程度の妊娠が報告されるが、今年は女子生徒17人が妊娠。このうち半数近くが「計画妊娠」に関与していたとみられる。いずれの生徒も16歳以下で、学校の保健室を頻りに訪れて妊娠検査を受け、陰性の結果が出ると「がっかりしたような態度を示していた」という。妊娠が判明すると、友人と手を打ち合わせて喜ぶ生徒もいた。子供の“父親”については生徒の多くが語ることを拒んでいるというが、「父親の1人は、24歳のホームレスの男性らしい」と、同校長は語る。

グロスター高校の教頭は、妊娠した女子生徒について、動機を「心の空白を埋めるため」と憶測しているが、一方でタイム誌は同校の施設が行き届きすぎていることが原因だとみている。同校には若い母親が通学できるよう、育児・医療施設が併設されている。教頭はこの見解を直ちに否定。「若い女性が施設の有無を基準に出産を決めるとは思わない」と反論した。

一方、地元のマクドナルド(McDonald's)の従業員は匿名で、この問題は静かな漁村を根底から揺るがしたと語る。「恥ずべきことだ。親の教育が行き届いていない。うちの店は午後11時に閉まるが、あの子たちは深夜の2時、3時まで駐車場にいた。学校側を非難することは出来ない。いったい親はどこにいるんだ？」

クリストファー・ファーナー教育長は地元テレビ局とのインタビューで、女子生徒の間に「妊娠の申し合わせ」があったことを認め、「全体的に自尊心が低く、愛情に飢えている生徒たちだ」との見方を示した。同州では16歳未満の少女との性交は犯罪。当局は相手の男性らを強姦(ごうかん)罪で訴追するかどうか検討している。

これに対し同校の理事の1人は20日、AFPに対し、「『協定』とは誇張しすぎ」だと述べた。関係者らはタイム誌の記事を読むまで協定について聞いたこともなく、グロスター市の市長も学校長も記事は事実を歪曲(わいきよく)していると主張した。

米国では2006年に10代の妊娠が増加に転じた。最近では人気歌手ブリトニー・スピアーズさんの妹の女優、ジェイミー・リン・スピアーズさんが17歳で女兒を出産。女子高生の妊娠をテーマにした映画もヒットしており、一部メディアはこうした風潮を背景と指摘している。

日本では、2006年にドラマ「14才の母：愛するために生まれてきた」で、女子中学生の妊娠が話題になった。また、ちょうど今、第80回アカデミー賞で4部門にノミネートされた映画「JUNO/ジュノ」が封切られており、16歳の妊娠が明るく前向きに描かれている。妊娠中絶反対運動の友人に出会って、中絶を思いとどまり、様々な困難を乗り越え無事出産するのだが、その後の子育てに関してはどうなったのだろう。続編は、コメディ？それともシリアスドラマ？ホラー映画にはならないで欲しい。